弘教寺
つつじ寺だより
第四号

お盆に思う

弘教寺住職　中山　英昭

日本において、お盆ほど国民的な仏教行事は他にない。「盆と正月」と言われる位大切にされてきた行事でもある。

いつの頃だったか。関越の高速道がまだ前橋までしか延びていなかった時、お盆の初日新潟の六日町まで百キロ以上の渋滞があったことを記憶している。当時は今のように休暇を調整して取るようなことはなく、一斉に休みに入るものだから、東京在住の地方の方々は、お盆の帰省ラッシュの中、渋滞をものともせず、ひたすら故郷をめざし、車を走らせ、あるいは、満員の列車に飛び乗るわけである。

寺は寺で、お盆の期間、門徒さんのお宅を経を読誦して回り、墓参りで来られた方々を本堂に迎え、あるいは湯茶の接待をし、お盆の四日間を超多忙の中過ごすことが恒例の行事である。住職にとっては、参拝の日程のこと、初盆を迎えるお宅のこと等、一週間位前から胃の痛みをかかえる時節でもある。

日本人のほとんどが、夏の大切な行事として受け入れている仏教行事であるが、その起源等は意外と知られていない。

よく言われる説に「盂蘭盆（うらぼん）経」の目連尊者が亡き母を餓鬼道の世界から救った話がある。「お盆」と親しみをもって言っているけれども、正しくは「盂蘭盆」で、意味の上からは「懸倒（けんとう）」（逆さづりの苦しみにあう）ということである。

お釈迦様在世の折、インドでは雨期となる四月から七月までの期間、精舎（しようじゃ）といわれる合宿施設に止（とど）まり、一歩も外に出ないで、施設内で修行に励む。その訳は、雨期にうっかり外に出て、虫などの小動物を踏んで殺してしまうと、殺生戒（せっしょうかい）を破ることになってしまう。そのため、ひたすら外に出ず、施設内でお釈迦様の説法を聞いたり、思い思いに修行に励むことになる。そんな折、お弟子の一人、目連尊者が、亡き母のことが気になり、神通（じんづう）第一と言われた自慢の神通力で調べてみると、母が貧しい中、幼少の目連を育てるために、誤って、店の食物を盗んでしまった。亡くなって後、そのことが災いして、餓鬼道の世界に落ちていることが分かった。驚いて、そのことをお釈迦様に相談すると、雨期の明ける七月十五の日に、多くの僧にお願いし、たくさんの食物を供物として供え、母親の追善供養をしなさい。そうすれば、餓鬼道の世界から救い出す事が出来ると示されたことで、七月十五日、目連尊者はそのことを実行し、無事母親を救い出す事が出来たのである。

仏教国の中、日本のように、国民的行事となっている国は、他にないと思う。亡き人を偲び、感謝の心を向けることは大切なことと思われる。

それにしても、先日の秋田の二児殺害の母親。目連尊者の母親が、我が子のために盗みをし、その罪によって餓鬼道に落ちたことを考えると、自分が自由になりたいために、邪魔になって、我が子を殺し、それをカモフラージュするために、さらに隣家の男児まで殺すという誠に身勝手な母親は、一体どんな世界に行くんだろうか。胸が痛む。

称名

お盆の起源
目連尊者

発行所
〒３７０―０１３１
伊勢崎市境米岡二七九ー二
浄土真宗本願寺派弘教寺内
寺報編集部責任者　玉田　忠
電話０二七０（七四）０五七三

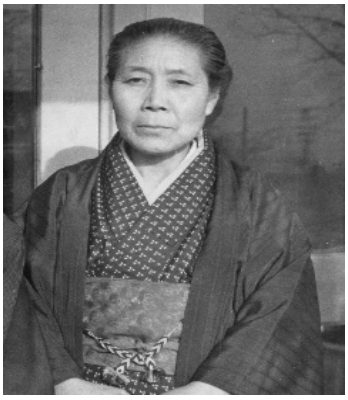
◆念仏に生きた人◆シリーズ Ⅱ

「義母と念仏」　伊勢崎市　田中邦子

私と義母との出会いは私達の結婚が決まった後、挨拶に見えた時でした。同じ浄土真宗の門信徒と言うことで義父母は大変喜びました。私の家と嫁いだ田中家の信仰の深さの違いには驚きました。

私の両親は若い時、新潟より伊勢崎に来て店を持ち家業が忙しいこともあり寺には、報恩講、永代経の時に参る程度でした。田中家では家族全員で、毎日朝晩正信偈をあげ生きている喜びと感謝の日々でした。私には仏様に手を合わせなさいとか、お寺参りをしなさいとか強要はしませんでした。自然に仏様に参るのを待っていたようです。

田中家の兄弟は幼い時から両親の後姿を見て身に付いたと思います。仏壇の「ミテゴザル」が良い教訓になったのだと思います。



義母が昔嫁いだ旧家で姑、小姑に苦労した事を私によく話してくれました。三十何年も一緒に生活しましたが、義父母は互いに争った事や口ごたえなどした事は一度もありませんでした。交通事故で亡くなった義弟の時涙一つこぼさず「この子の与えられた命」と、しっかりした態度に強い人と思いましたが普段の信仰のたまものと思いました。

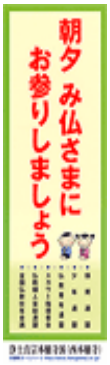
普段は質素倹約で困った困った人には親切に物心共に施し、決して報酬を求めるとか恩にきせるとか毛頭なく、人に親切出来る事は自分が幸せで、出来る事を喜ぶ仏の心を持った感謝の日常の日々でした。

義母が病に伏した時、また亡くなった時、お世話になった人達から感謝の気持ちをお聞きして義父母の生き方と仏の教えを感じました。私も聴聞を重ね感謝の日々を送りたいと思います。

喜びも　悲しみも
　なむあみだぶつ
楽しみも　苦しみも
　なむあみだぶつ

義母の念仏はこの文につきる
現代の妙好人でした。

合掌



「母の念仏」　太田市　玉田　忠

「想い出は影のごとくに寄り添いて
　永久の行方を告げて消え行く」

この歌は、母「シゲヲ」の葬儀のあと、私が浜松のお寺にお参りしたとき、本堂の壁に掲げてあった歌で今もわすれることができません。

昭和六十年二月、母は七十五歳で、自宅で私の腕に抱かれて、瞳が「ありがとう」と告げているようにして息を引き取りました。

救急車と医者が駆けつけてくれましたが間に合わず、「心不全」の診断でした。

葬儀のときご近所の人達は「三日ほど前に散歩されているところをお見かけしましたのに！」と、話されていました。

私は母の生前、お寺の事は全て母任せで、お盆や報恩講の時もお寺に母を送り届けて、仏事が終わった頃に迎えに行くありさまでした。母往生の後、そのことを縁として導かれるままに、自然にお寺に結びつけられたように思います。

お寺の本堂で合掌し、法話を聞き、仏教とは、浄土真宗とは、自分を省みる静かな時を得たように思います。

浜松を離れ群馬で弘教寺に出遇い、壮年会で仏法を聞かせていただく身になり、この「出遇い」は、今考えてみますと「母の念仏」のお蔭と感謝しています。

合掌

◆退任された役員の皆様◆

四月に退任されました役員のみなさまです。永年の護持発展に務められたご功績に対して、ご住職から感謝状が授与されました。

永年にわたってのお務めご苦労さまでした。

写真向かって左から
総代　栗原　由夫氏
総代　池田　正良氏
総代　田中　鐵郎氏
世話人　内山　雅嗣氏

御同朋・御同行の世界に生きよう

記念法話は、大阪千里寺住職武田達城師による講題「この世のつとめ」で「この世にあってはお念仏がよりどころである」ということを「親鸞聖人の人間性」をまじえながらお話しいただきました。

その後、高崎ビューホテルへ場所を移しての祝賀会。弘教寺からは、十周年を振り返って、坂井サク様が、組仏婦五周年記念講話をされた、中村富子先生について話され、久子女史の歌を吟じて下さいました。

さらに、各寺仏婦の歌や踊りの余興の中、弘教寺ユカレリのフラダンスが、場を一層盛り上げました。

この十年間、各寺の婦人会活動が盛んになってきたことを感じさせられる大会でした。

（瀬古ノ）

仏教壮年会・婦人会ニュース

群馬組仏婦連盟結成十周年記念大会

六月十三日高崎覺法寺にて百五十余名の参加のもと、十周年記念大会が開かれました。総会では、新旧役員の交代があり、会長は、覺法寺二宮弘子様から西蓮寺伊澤敏様へ引き継がれました。

東京教区仏教壮年会連盟総会

四月二十三日に築地別院にて東京教区壮年会の会長会議並びに連盟総会が開催されました。その狙いは、親鸞聖人七百五十回大遠忌に向けて、仏教壮年会活動の拡充発展を強力に推進して行こうというものでした。

特に、教区会長会議は、今回が初めての開催であり、活発な質疑応答がなされ、大変有意義な会議となりました。（貝塚シュ）

弘教寺仏壮・仏婦合同研修旅行

仏壮・仏婦合同研修旅行「北のロマン小樽と湯ったり登別の旅」は、六月二十四日より三日間、三十六名の参加でした。

大修復工事の行われた小樽別院ご本堂でお経を唱え、別院の職員の方より、親鸞聖人のみ教えを次の世代に伝えて行く尊いお話しに感動させられました。

研修終了後は、石原裕次郎記念館を見学、運河倉庫のあぶりやきで夕食し、周辺の散策を楽しみました。登別温泉では婦人部のフラダンスや日本舞踊、歌で盛りあがり親睦がはかられました。来年も元気で参加出来ることを楽みにしています。（伊部ヨ）

第３回　壮年会ゴルフコンペ報告

今井洋二さん「初優勝」！

名門新玉村ゴルフ場で好天に恵まれた五月二十五日第三回のゴルフコンペが実施された。今井洋二さんが初優勝をしました。（M）

子どもの集い・夏第十二回

平成十八年八月十九日（土）
十二時半より受付、十三時半開会

○おつとめ　○ご法話
○紙芝居「砂漠の井戸に朝が」
○お祭り広場　「ヨーヨー」
「びっくりシャボン玉」
「どじょうすくい、など」

今年から、小学校の夏休みが一週間短くなりました。楽しい夏休みの最後の土曜日、心に残る思い出を作りましょう！

……

◆子どもの集い・春第４回◆

神谷　明さん、ありがとう！！

夢に向かって、基礎を大切にして練習を重ねよう。抱え込まず、焦らず、諦めず！と言うお話。キン肉マンやケンシロウ、毛利小五郎と変わる神谷さんの七色の声は、その努力の賜物だったのです。心のこもったお話と感動的な声のパフォーマンスに子供六十三名、大人五十七名の参加者が皆、魅了されたひと時でした。

◆退任された筆頭総代◆　栗原由夫

ごあいさつ　退任にあたって

幼い頃、祖母に連れられお寺に行き、意味不明のまま両手を合わせ「ナムアー……」と頭を下げたことが脳裏に浮かんできます。

その後、時はうつりご縁をいただき、寺役員として末席を汚し、以来今日まで四十有余年、そこには上下、利害の関係なく、同一求道者の集まりとして、楽しい有意義な年月を過ごすことができました。

この間、故先代住職から現住職と共に、今後寺院のあるべき姿を洞察する中で、より身近かな開かれた寺をめざし、門信徒各位のご理解、ご協力をいただきながら、着々と整備実現されてきていることは誠にご同慶にたえません。

今後、皆さんのお力によって弘教寺のますますのご法義繁盛と、各位のご多幸、ご発展を念じ申し上げます。

本当に永いことお世話になり有り難うございました。

合掌

永い年月の役員としてご尽力いただき、まことに有り難うございました。

◆ 編 集 後 記 ◆

私達を楽しませる夏のイベント、甲子園が始まりました。皆様の応援校の活躍は？今年で八十八回になります、先の国を背負った世界のイベントW杯は七十六年の歴史になるそうです。「つつじ寺だより」は四回でスタートしたばかりです、頭の中では四十二年後は百三十号で高校野球に並べる？と夢みたりしておりますが、今日の一歩一歩を大事にし継続することに心掛けております。

（橋本マ）

◆ 行 事 予 定 ◆　（平成１８年８月～平成１８年１１月

月別	弘教寺の行事予定		教区・群馬組の行事予定	
８月	７日	つつじ寺だより発行		
	１８日	婦人会例会	13日～16日	お盆
	１９日	夏の子供の集い(夏12回)		
９月	１０日	壮年会例会（第３回）	１８日	千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要
	１４日	弘教寺ｺﾞﾙﾌｺﾝﾍﾟ（第４回）		
			20日～26日	秋のお彼岸
	２７日	婦人会例会		
１０月				
	２０日	婦人会３５周年記念行事 午前 記念式典 午後 公開ﾊﾜｲｱﾝｺﾝｻｰﾄ		
			２３日	組 ビハーラ 若宮苑彼岸会法要
１１月				
	１１日	壮年会例会（第４回）	11日～16日	築地本願寺報恩講
	２０日	婦人会例会		